

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスくすの木		
○保護者評価実施期間	2026年2月6日		～ 2026年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	2026年2月6日		～ 2026年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月2日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家庭的な雰囲気作りでリラックスできる	第二の家と言ってもらえるようにリラックスして過ごせるように工夫している。疲れて帰ってきたときは、カーベットに横になってくつろいだり、学校での悩みやストレスをなるべく解消してもらえそうな雰囲気作りをしている。週に何度かおやつを手作りして食への興味が湧くよう工夫している。そのため、子どもたちからも家みたいと言ってもらえることが多い。	各々リラックスできる環境は違うのでどの子に対してもしリラックスできる環境を支援できるように取り組みたい。
2	活動プログラムの曜日固定化	曜日ごとに活動が決まっており参加したい曜日を選んで利用することが出来る。毎日利用することで五領域をすべて網羅することが出来る。また、道場やプールを利用することで事業所以外にもスペースの確保が出来ている。ボランティア活動では、事業所周辺の草むしりやゴミ拾い時に感謝の言葉をかけて頂くことが多く、子どもたちの社会貢献の意識を高めることが出来ている。	プールは、下校の遅い児童は泳ぐ時間が短くなることがあるが、土曜日にも同じ活動を入れることにより活動を楽しんでもらえるように心がけている。子どもたちの意見も交えながらさらに充実できるように取り組んでいきたい。
3	場の雰囲気が明るく活気がある	職員同士がコミュニケーションを十分にとっている為、自然と元気に明るく子どもたちに接することが出来ている。活動も職員が率先して楽しみ、子どもたちを巻き込むよう心がけている。そのため子どもたちも自然と笑顔になり、意地悪をしたり喧嘩をしたりすることが少ない。明るく挨拶をすることで学校でのストレスの切り替えになっているのでは無いかと思う。	送迎終了後に、職員全員でその日あったことを話し合い子どもたちの状況や支援の仕方など皆で意見を出し合っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニング等の保護者研修の場がない	個々の特性が違うため、抱えている課題が相違していることでどのような形でペアレントトレーニングを行なったらよいか思案している段階。	どのような形で行うのが良いか検討していきながら、良い情報は保護者の方に共有できるよう取り組みたい。必要に応じて個人面談をしたり同じ困りごとを抱えている方に集まって頂き話をしたりアドバイスが出来る機会を作るよう心がけていきたい。
2	施設的环境整備がまだ不十分である	仕切りがないため、宿題をしている子と宿題を済ませ遊んでいる子が同じスペースにいるため集中できない場合がある。部屋の端と端に座らせたりと工夫はしているが声が聞こえてしまう。	宿題をしている子がいる場合は、座って出来る遊びを提案したり、声が大きくならないよう配慮して過ごしていきたい。下校してから活動が始まるまでの時間の過ごし方を検討していきたい。
3	年齢層が幅広く皆が楽しめる活度が難しい	帰ってくる時間も年齢や楽しいと思うことが様々で楽しめているか心配になる場合がある。	活動を分けたり意見を聞いたりしながら検討していきたい。